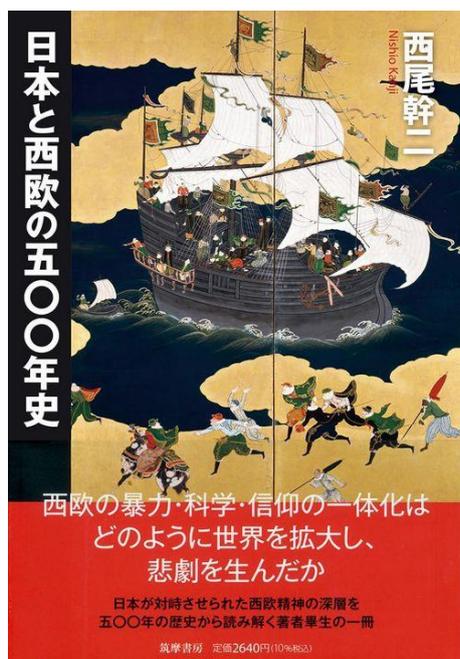


【きつとね！ 米沢のりひさ まちづくり報告会】 図書紹介編

2024.7.31 ホテル日航ノースランド帯広

～市長講演で恒例の図書紹介～

※市長講演の最後に、最近読んだ本のお話がありましたので、ご紹介します。



ゴールデンウィーク以降に読んだ本で、面白かった本をご紹介します。

「日本と西欧の五〇〇年史」は二回ほど読みました。振り返ってみると今日話したことに繋がります。物事を見るとときに時間軸をどこまで引っ張るのか。この西尾さんは 500 年引っ張りました。今から 500 年引っ張ったところでの世界史はどうだったか、日本はどうだったかとお話して、とても新鮮なものがありました。

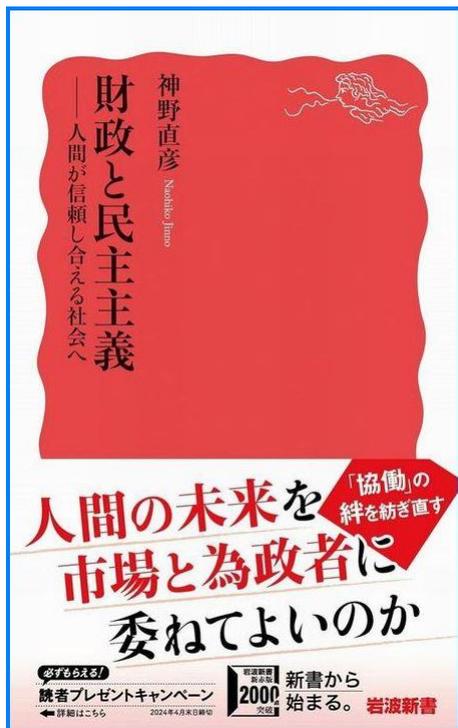


そして、私の好きな作家の真山仁氏の「疑う力」という新書も、中々おもしろいです。それと私自身なるほどと自戒したところですが東浩紀氏の「訂正する力」も示唆深いところがありましたのでご紹介します。



これは異質ですが、「食べものから学ぶ現代社会」「詩のころを読む」この二冊です。岩波新書のジュニア新書で中学生、高校生向けの本です。自分の知らないことがたくさん書いてありました。中学生、高校生向けに書いてありますので難しい言葉は一切使っていません。改めて感じました。難しい言葉を使って説明する今日の私のプレゼンは、大した事ないです。中学生がわかる言葉で話すというのは凄いなと思いました。特に「食べものから学ぶ現代社会」は「フードバレーと

かち」に生きている我々、是非読んでほしいなと思いました。



「財政と民主主義」であります。おそらく今年ベストな本ではないでしょうか。岩波新書も力を入れて作っている本です。これも世の中には頭のいい人がたくさんいると、改めて思い知らされた本です。行政の財政という世界に生きていますが、それと民主主義についてのお話がありました。

これが最後です。

山口周氏というコンサルタントで、もともと芸術分野をしていて、大手のコンサル会社のパートナーをしています。この人の本が出ると必ず読みます。これも目から鱗です。今日はあまり

話しません、が、「そうだよな」と思うことがたくさん書いてありますので、是非ご参考にさせていただければ幸いです。

